

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類		授業担当者
キャリア入門Ⅱ	(講義・演習・実習)		出口 秀貴(介護福祉士) 大谷 久也(介護福祉士)
実務経験	大谷:31年10月	出口:16年	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
15回	30時間(1単位)	2年 通年	

[授業の目的・ねらい]

- ①「自分を知る」「社会を知る」「キャリアの決定方法を知る」を通して「生きること・学ぶこと・働くこと」についての理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

①授業を通して学生生活で何をするのかを明確にし「考える」、介護福祉実習や多くの経験を通して、自分の可能性を探り「試す」、なりたい自分になるために挑戦「挑む」、具体的目標に向けて活動する「磨く」、というサイクルを身につける。

②課外講座やアクティブラーニングを通して、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ。

[授業修了時の達成課題(達成目標)]

①介護福祉専門職として「自己理解・他者理解」を深め、「自分」を人にわかりやすく伝える力を身につけ、自分とは異なる価値観・経験をもつ人の話に耳を傾け、自分のキャリア形成に生かすこと。

②社会と繋がるために必須のコミュニケーション能力を、グループワークやディスカッションを通して磨く。

③介護福祉士として働く自分がイメージできる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 異なる価値観に触れる(宿泊研修)①
2. 異なる価値観に触れる(宿泊研修)②
3. 異なる価値観に触れる(宿泊研修)③
4. 異なる価値観に触れる(宿泊研修)④
5. 社会人基礎力(福岡介護の日啓発活動)①
6. 社会人基礎力(福岡介護の日啓発活動)②
7. 社会人基礎力(佐賀介護の日啓発活動)①
8. 社会人基礎力(佐賀介護の日啓発活動)②
9. 自分を知る(アクティブラーニングを通して)①
10. 自分を知る(アクティブラーニングを通して)②
11. 介護のキャリアデザインを考えよう①
12. 介護のキャリアデザインを考えよう②
13. 職業社会の基礎知識①
14. 職業社会の基礎知識②
15. 職業社会の基礎知識③

[使用テキスト・参考文献]

適宜資料配布等

[単位認定の方法及び基準]

- ①出席及び受講態度
- ②レポート提出及び内容

総合評価

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ-1	(講義・演習・実習)	大谷 久也(介護福祉士)
実務経験	大谷:31年10月	大谷 久也(介護福祉士)
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年
		必修

[授業の目的・ねらい]

- ①介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

- ①介護サービスや地域連携などフォーマル、インフォーマルな支援を学ぶ。
②多職種協働による介護を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を学ぶ。
③介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し、介護福祉現場の実際と関連させながら学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①介護福祉の基本的な考え方を理解する。
②介護を必要とする対象者と暮らしの理解・支援に関する基礎知識を理解する。
③介護における安全の確保を理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 介護福祉士を取り巻く状況
2. 社会福祉士及び介護福祉士法
3. 介護における専門職能団体の活動
4. 介護福祉士の倫理①介護実践における倫理
5. 介護福祉士の倫理②日本介護福祉士会倫理綱領
6. 介護サービスの特性①意味と特性
7. 介護サービスの特性②種類と提供の場
8. 介護サービス提供の場とその特性①高齢者に対する居宅系・入所系
9. 介護サービス提供の場とその特性②障がい者に対する居宅系・入所系
10. 障がい者の介護と高齢者の介護
11. 多職種連携①協働職種の理解と連携のあり方
12. 多職種連携②利用者を取り巻く地域連携のあり方
13. 地域連携の意義と目的
14. 地域連携にかかる機関の理解
15. 利用者を取り巻く地域連携

[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座3 中央法規出版 「介護の基本Ⅰ」 最新介護福祉士養成講座4 中央法規出版 「介護の基本Ⅱ」	[単位認定の方法及び基準] 出席状況 授業態度 課題レポート 筆記試験(中間・終講)を総合評価する。
---	--

(介護)

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
介護の基本Ⅱ-2	(講義)・(演習)・実習)	大谷 久也（介護福祉士）
実務経験	大谷：31年10月	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年
必修		

[授業の目的・ねらい]

- ①介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

- ①介護サービスや地域連携などフォーマル、インフォーマルな支援を学ぶ。
②多職種協働による介護を実践するために他の職種の専門性や役割と機能を学ぶ。
③介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解し、介護福祉現場の実際と関連させながら学ぶ。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

- ①介護福祉の基本的な考え方を理解する。
②介護を必要とする対象者と暮らしの理解・支援に関する基礎知識を理解する。
③介護における安全の確保を理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

16. 介護における安全の確保・重要性
17. 事故防止、安全対策
18. リスクマネジメント
19. 感染管理のための方策①生活のなかのリスクと対策
20. 感染管理のための方策②生活の自立とリスクマネジメント
21. 感染管理のための方策③事例を通しての演習
22. 介護に携わる人の健康管理
23. 健康管理の意義と目的
24. 健康管理に必要な知識と技術
25. 安心して働く環境づくり
26. 緊急、救急時対応・災害時ネットワーク
27. 燐え尽き症候群・スーパービジョン
28. ボディメカニクスや応用・福祉用具・環境改善
29. ストレス管理
30. まとめ

[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座3 中央法規出版 「介護の基本Ⅰ」 最新介護福祉士養成講座4 中央法規出版 「介護の基本Ⅱ」	[単位認定の方法及び基準] 出席状況 授業態度 課題レポート 筆記試験（中間・終講）を総合評価する。
---	--

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護の基本III-1	(講義・演習・実習)	中野 清隆
実務経験	中野:	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年
必修		

[授業の目的・ねらい]

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ①生活の個別性と多様性の理解
 - ②高齢者や障がい者の生活
 - ③家族介護者の理解と支援
- [授業終了時の達成課題(到達目標)]
- ①介護を必要とする人の理解
 - ②介護を必要とする人の生活を支えるしくみの理解
 - ③協働する多様性の機能と役割の理解

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 介護を必要とする人の理解 (生活の個別性と多様性を知る)
2. 介護を必要とする人の理解 (高齢者の生活の個別性と多様性について理解)
3. 介護を必要とする人の理解 (高齢者の地域生活について知る)
4. 介護を必要とする人の理解 (介護保険制度・サービスの活用と生活の関係について知る)
5. 介護を必要とする人の理解 (ケアマネジメント・フォーマル・インフォーマルについて知る)
6. 居宅サービスにおける多職種の機能と役割を習得する (意義と課題について理解)
7. 高齢者の住まいについて理解する (施設・居宅)
8. 生活を支える基盤 (制度・経済・健康について知る)
9. 障がい者の生活の個別性と多様性を理解する (施設・居宅)
10. 障がい者と家族・地域の関わりについて理解
11. 障がい者の施設サービスの仕組みについて理解する
12. 障がい者施設における多職種連携の実際
13. チームアプローチの意義・目的
14. 医療・保健・福祉職の役割と専門性
- 15.まとめ (高齢者の暮らしの理解、障がい者の暮らしの理解)

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座4 中央法規出版
「介護の基本II」

[単位認定の方法及び基準]

出席状況
授業態度
課題レポート
筆記試験(中間・終講)を総合評価する。

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護の基本III-2	(講義)・(演習)・実習)	中野 清隆
実務経験	中野 :	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年

[授業の目的・ねらい]

介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解し、介護福祉現場の実際の場面を多角的に分析する中から、安全対策の必要性を理解し、介護福祉実践するための健康管理方法、労働環境の管理の重要性を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ①介護における安全の確保・事故防止、安全対策
- ②感染対策・薬の取り扱いに関する基礎知識と連携
- ③介護従事者の心身の健康管理・環境の整備

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①介護における安全の確保とリスクマネジメントの理解
- ②介護従事者の安全の理解
- ③介護従事者の健康管理の理解

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 介護における安全の確保(安全性の確保の重要性について理解)
2. 事故防止、安全対策(介護場面におけるリスクマネジメントを理解)
3. 事故防止、安全対策(介護における事故防止・安全対策について理解)
4. 感染管理の対策(高齢者施設での感染予防策について理解)
5. 感染管理の対策(手洗い、嘔吐した利用者の対処法について理解)
6. 感染管理の対策(災害における感染予防対策について理解)
7. 服薬管理とリスクマネジメント(薬剤の正しい取扱い方について理解)
8. 服薬管理とリスクマネジメント(他職種との連携について具体的な方法の理解)
9. 介護従事者の心身の健康管理の重要性(こころの健康管理について理解)
10. 介護従事者の心身の健康管理の重要性(からだの健康管理について理解)
11. 介護従事者の心身の健康管理の重要性(自己のこころとからだの健康・生活管理の理解)
12. 介護従事者の安全(労働安全と環境整備について理解)
13. 介護従事者の安全(労働基準法、育児・介護休業法などの基礎知識の理解)
14. 介護福祉士の働き方(介護を必要とする人の生活の未来について根拠を理解)
15. まとめ(事故防止、安全対策、感染管理の対策、介護従事者の健康管理)

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座4 中央法規出版
「介護の基本II」

[単位認定の方法及び基準]

出席状況
授業態度
課題レポート
筆記試験(中間・終講)を総合評価する。

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
日常生活支援技術III	(講義・演習・実習)	塚本 真由美
実務経験	塚本:	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年

[授業の目的・ねらい]

①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

①それぞれの障害や疾病の理解と生活を支えるための観察の視点、支援の展開を理解する。

②それぞれの障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

①障害や疾病等生活する人の背景を理解し、生活支援の意義、他職種連携の目的を学ぶ。

②障害について医学的・心理的面から理解し生活上の困りごとや介護福祉士の役割を理解する。

③障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術の実践が出来る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは
- 2～3. 肢体不自由に応じた介護
- 4～5. 視覚障害に応じた介護
- 6～8. 聴覚・言語障害に応じた介護
9. 重複障害(盲ろう)に応じた介護
10. (内部障害) 心臓機能障害に応じた介護
11. (内部障害) 呼吸器機能障害に応じた介護
12. (内部障害) 腎機能障害に応じた介護
13. (内部障害) 膀胱・直腸機能障害に応じた介護
14. (内部障害) 小腸機能障害に応じた介護
15. (内部障害) H I Vによる免疫機能障害に応じた介護

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座8 中央法規出版
「生活支援技術III」

[単位認定の方法及び基準]

授業態度・提出レポート・筆記試験(中間・終講)により総合評価する。

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
日常生活支援技術III	(講義・演習・実習)	塚本 真由美
実務経験	塚本:	塚本 真由美
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年
必修		

[授業の目的・ねらい]

- ①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

- ①それぞれの障害や疾病の理解と生活を支えるための観察の視点、支援の展開を理解する。

- ②それぞれの障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術を学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①障害や疾病等生活する人の背景を理解し、生活支援の意義、他職種連携の目的を学ぶ。
②障害について医学的・心理的面から理解し生活上の困りごとや介護福祉士の役割を理解する。
③障害や疾病をふまえ、生活を支えるための基本の生活支援技術の実践が出来る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

16. (内部障害) 肝臓機能障害に応じた介護
17. 重症心身障害に応じた介護
18~19. 知的障害に応じた介護
20. 精神障害に応じた介護
21~22. 高次脳機能障害に応じた介護
23~24. 発達障害に応じた介護
25. (難病) 筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護
26. (難病) パーキンソン病に応じた介護
27~28. (難病) 悪性関節リウマチに応じた介護
29~30. (難病) 筋ジストロフィーに応じた介護

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座8 中央法規出版
「生活支援技術III」

[単位認定の方法及び基準]

授業態度・提出レポート・筆記試験(中間・終講)により総合評価する。

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護総合演習Ⅱ	講義・演習・実習)	出口 秀貴(介護福祉士) 大谷 久也(介護福祉士)
実務経験	大谷:31年10月 出口:16年	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
30回	60時間(2単位)	2年 通年
		必修

[授業の目的・ねらい]

- ① 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う。
- ② 実習Ⅱに向けての個別ケアのための介護過程の展開方法を理解する。
- ③ 実習Ⅱの振り返りや実践した介護過程のまとめや報告ができる。

[授業全体の内容の概要]

- ① 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題の明確化、介護計画の作成、実習後の評価、計画の修正といった介護過程の展開の理解を深めていく。
- ② 介護実習Ⅱで展開した介護過程を介護事例研究として発表する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ① 介護過程の展開のために個別の学習到達状況に応じた他科目で学習した知識や技術の総合ができる、介護実習で実践できる。
- ② 介護事例研究を通して、様々な書物を読み、実践した介護過程が正しかったのかを振り返ることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 実習要項の説明
- 2~3. 実習施設の理解
- 4~9 介護実習Ⅱの実習記録準備
- 10~14. 介護実習Ⅱの登校日における記録のまとめ
15. 介護実習Ⅱの最終的な記録のまとめ
- 16~22. 自分史作成
- 23~28. エンディングノート作成
- 29~30. 介護観について

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座10 中央法規出版
「介護総合演習・実習」第2版
大川看護福祉専門学校介護福祉学科
研修及び実習に関する要綱

[単位認定の方法及び基準]

- ①出席状況
- ②授業態度
- ③提出物の内容、提出率
- ④報告会の評価
- ⑤中間、終講試験

総合評価

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会福祉援助技術	(講義 ・ 演習 ・実習)	占部 尊士
実務経験	占部：24年1月	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間 (1単位)	2年 前期

[授業の目的・ねらい]

- ①「生活」を「家族」「地域」「職業」「学習」「余暇」等の諸側面から総合的に把握し、ライフサイクルを考えられるようになること。また、多様なライフスタイルから相互に様々な学びがあることを体験的に学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

- ①演習を通じ、日本の社会保障や介護保険制度などの考え方と仕組みを活用できるようになる。

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

- ①介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 社会、組織の概念
2. ソーシャルネットワーク、ソーシャルキャピタル
3. 地域社会における生活支援
4. 地域福祉の理念
5. 社会保障の基本的な考え方
6. 社会福祉法
7. 社会福祉援助サービスとグループ
8. グループの基本的理解
9. グループアプローチの展開
10. 社会福祉方法の統合化とコミュニティ・ソーシャルワーク
11. 介護サービスと他サービスの相違点
12. 基本的面接技術
13. 対人関係とコミュニケーション
14. 組織におけるコミュニケーション
15. コミュニティソーシャルワーカーに求められる資質と専門性

[使用テキスト・参考文献] 適宜資料を配布	[単位認定の方法及び基準] 出席状況・授業態度・終講試験 (60点以上合格、不合格者は再試験) 総合評価
--------------------------	---

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会の理解II	(講義・演習・実習)	徳渕 義信
実務経験	徳渕：42年	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 前期 必修

[授業の目的・ねらい]

①高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を修得する。

[授業全体の内容の概要]

- ①高齢者福祉と介護保険制度
- ②障害者福祉と障害者保険制度
- ③介護実践に関連する諸制度

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①高齢者保健福祉の動向とそれに関連する法体系の概要・各法律の役割を理解する。
- ②障害者福祉制度の法律の全体像を捉え、障害者総合支援制度について理解する。
- ③介護実践に関連する種々の制度について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 高齢者保健福祉の動向・高齢者保健福祉に関する法体系
2. 介護保険制度①
3. 介護保険制度②
4. 障害者保健福祉の動向・障害者の定義
5. 障害者保健福祉に関する制度
6. 障害者総合支援制度①
7. 障害者総合支援制度②
8. 障害者総合支援制度③
9. 個人の権利を守る制度①
10. 個人の権利を守る制度②
11. 保健医療に関する制度①
12. 保健医療に関する制度②
13. 貧困と生活困窮に関する制度
14. 地域生活を支援する制度
15. まとめ

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座2 中央法規出版
「社会の理解」

[単位認定の方法及び基準])

出席日数・授業態度・筆記試験も総合評価とする
(60点以上合格、不合格者は再試験)

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護のコミュニケーションⅡ	(講義・演習・実習)	鈴木 陽子
実務経験	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 前期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ①対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ①情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①介護福祉職として、利用者や家族の意向を円滑に調整するためのコミュニケーション手順を理解する。

- ②介護福祉職チーム、多職種協働チームにおけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。

- ③チームコミュニケーションをふまえ、報告・連絡・相談の技術を活用し、記録の意義・目的とその活用がケアの質の向上につながる事を理解する。

- ④会議の意義や目的、種類、役割を理解し、事例検討における基本姿勢を理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1. 家族との関係づくり
2. 家族への助言・指導・調整
3. 家族関係と介護ストレスへの対応
4. チームのコミュニケーションとは
5. 「報告」「連絡」「相談」の技術①
6. 「報告」「連絡」「相談」の技術②
7. 記録の技術①
8. 記録の技術②
9. 会議・議事進行・説明の技術①
10. 会議・議事進行・説明の技術②
11. 事例検討に関する技術①
12. 事例検討に関する技術②
13. 事例検討に関する技術③
14. 情報の活用と管理のための技術①
15. 情報の活用と管理のための技術②

[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉士養成講座5 中央法規出版 「コミュニケーション技術」	[単位認定の方法及び基準] ①出席状況 ②授業態度 ③終講試験
	総合評価

(介護)16回生

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
生活技術総論	(講義・演習・実習)	鈴木 陽子
実務経験	鈴木:25年	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 前期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ①生活観が個人の生活背景や生活史の違いによって多様であることを学び障害のある人や高齢者の生活を理解し、生活支援の過程でニーズの発見と連携・協働するかを学習する。

[授業全体の内容の概要]

- ①対象者の生活におけるニーズの把握から自立に向けた介護の再学習を行い、専門性のある知識の習得を行う。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①対象となる人の生活状況を整理し、ニーズの優先順位を考える。
 ②ICFの視点に基づいて居住環境の生活の流れの中で理解する。
 ③より専門的で根拠に基づいた幅広い知識を身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 生活支援の基本的な考え方
(生活支援とは何か・ライフサイクルと生活の豊かさ・生活支援のポイント)
2. 生活支援と介護過程 (ICFの視点にもとづく生活支援)
3. 生活支援と介護過程 (本人・利用者を理解するためのICFの視点)
4. 生活支援とチームアプローチ (生活支援におけるチームアプローチの重要性)
5. 生活支援とチームアプローチ (ライフステージとチームアプローチのあり方)
6. 住まいの役割と機能 (住まいの役割と機能を考える)
7. 住まいの役割と機能 (家族と生活習慣)
8. 生活空間 (人と空間)
9. 生活空間 (加齢と生活空間)
10. 総括 : 自立に向けた移動の介護
11. 総括 : 自立に向けた身じたぐの介護
12. 総括 : 自立に向けた食事の介護
13. 総括 : 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
14. 総括 : 自立に向けた排泄の介護
15. 総括 : 休息・睡眠の介護

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座6 中央法規出版
「生活支援技術Ⅰ」

[単位認定の方法及び基準]

- ①出席状況
 ②授業態度
 ③終講試験
総合評価

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護過程演習Ⅱ	講義・演習・実習)	野口 清孝(介護福祉士)
実務経験	野口:	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 前期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ①本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を理解する。
- ②アセスメントでの課題を利用者本位の視点で明確に捉えられ、立案することで必要な介護サービスの提供ができ、チームアプローチとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できる能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

- ①利用者の生活の質の向上に向けて生活上の課題を把握し必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①5W1Hを踏まえた介護計画を立案できる。
- ②利用者の状態や、状況に応じた根拠に基づいた介護過程の展開が出来る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 実習時の情報収集の方法について
2. 実習時のアセスメントについて
3. 事例検討①(個別介護計画N04について)
4. 事例検討②(個別介護計画N05について)
5. 個別介護計画表N0.6記入方法(援助内容について)
6. 事例をもとに個別介護計画N0.6を記入
7. 個別介護計画表N0.7記入方法(結果・評価について)
8. 事例をもとに個別介護計画N0.7を記入
9. 事例を基に個別介護計画表N0.1.2記入
10. 事例を基に個別介護計画表N0.3記入
11. 事例を基に個別介護計画表N0.4.5記入
12. 立案した個別介護計画の事例検討
13. 事例を基に個別介護計画表N0.3記入
14. 事例を基に個別介護計画表N0.4.5記入
15. まとめ

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座9 中央法規出版
「介護過程」第2版

[単位認定の方法及び基準]

出席
授業態度
課題レポート
総合評価する

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
介護実習Ⅱ	(講義・演習・ <u>実習</u>)	出口 秀貴(介護福祉士) 大谷 久也(介護福祉士)
実務経験	大谷:31年10月 出口:16年	
実習日数	時間数(単位数)	配当学年・時期
26日	195時間(4単位)	2年 前期 必修

[実習の目的・ねらい]

①個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を開拓し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

[実習全体の内容の概要]

- ①一つの施設・事業等において一定期間以上継続して行う実習。
- ②利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程を継続的に実践する。

[実習終了時の達成課題(到達目標)]

- ①個別介護計画を立案し、介護過程を開拓できる。
- ②実習施設で実施されているプログラムに参加し、介護全般について理解できる。
- ③チームの一員として介護を遂行できるような、専門的視野と態度を身に着ける。

[実習の日程と各回のテーマ・内容・方法]

1. 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、グループホーム、障害児・者施設等において26日間の介護実習を行う。
 - 1)個別の介護計画を立案し、介護過程を開拓する。
 - 2)24時間のケアを通じ、利用者の生活全般を理解し、介護のあり方を考える。
 - 3)地域社会と施設の関係について理解を深め、家族を含めた地域へのはたらきかけについて学ぶ。
 - 4)終末期介護について学ぶ。
 - 5)介護福祉専門職としての職業倫理、社会的役割、使命などについて考え、組織の一員としての責任とチームケアの重要性を理解する。

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座10 中央法規出版
「介護総合演習・介護実習」
大川看護福祉専門学校介護福祉学科
研修及び実習に関する要綱

[単位認定の方法及び基準]

- ①実習指導者評価
- ②科目担当者評価

総合評価

(こころとからだのしくみ)

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症の理解Ⅱ	(講義・演習・実習)	城戸 由香里
実務経験	城戸：	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間 (1単位)	2年 前期

[授業の目的]

①認知症のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

[授業全体の内容の概要]

- ①認知症を取り巻く状況をふまえ、認知症を引き起こす疾患の特徴と、主な症状、心身の変化、生活への影響を理解する。
- ②認知症の人を介護する家族のストレスの原因や、対処法について理解し、望ましい環境と地域のサポート体制、他職種連携と協働について理解する。

[授業の目標]

- ①症状から派生する生活への影響をアセスメントし、介護を実践するための基礎的能力を学ぶ。
- ②認知症がある人と家族に対し専門職や地域によるチームサポート体制について理解する。

[授業の日程・内容]

1. 障害をかかえて生きることへの支援 <10時間：5回>
 - 1) 認知症を取り巻く状況 これまでー今ーこれから
 - 2) 認知症ケアの理念と視点
 - 3) 認知症当事者の視点からみえるもの
2. 認知症ケアの実際 <10時間：5回>
 - 1) パーソン・センタード・ケア
 - 2) 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール
 - 3) 認知症の人とのコミュニケーション
 - 4) 認知症の人へのケア
 - 5) 認知症の人へのさまざまなアプローチ
 - 6) 認知症の人の終末期医療と介護
 - 7) 環境づくり
3. 介護者支援 <6時間：3回>
 - 1) 家族への支援
 - 2) 介護福祉職への支援
4. 認知症の人の地域生活支援 <4時間：2回>
 - 1) 制度、サービス、機関、地域づくり
 - 2) 多職種連携と協働

[使用テキスト・参考文献]

最新 介護福祉士養成講座13 中央法規出版
「認知症の理解」

[単位認定の方法及び基準]

レポート・筆記試験により評価

(こころとからだのしくみ)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
こころとからだのしくみIII	(講義・演習・実習)	山崎 京子(看護師)
実務経験	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 前期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ①介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造と機能を理解する。
- ②運動学、生理学をもとに加齢や様々な疾患でもたらされる生活障害はどのようなメカニズムで生じるか理解する。
- ③人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響とその支援に必要な基礎を理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ①生活支援技術に関連した入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、終末期におけるこころとからだのしくみについて学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①入浴・清潔がもたらす心身への効果と、その必要性について理解する。
- ②排尿・排便のしくみと、観察、記録、報告の重要性を理解する。
- ③排泄障害の種類と特徴を理解し、対処方法、対応について理解する。
- ④休息・睡眠のしくみと睡眠障害の種類と特徴を捉え、その観察ポイントを理解する。
- ⑤終末期から「死」までの身体機能の特徴とその変化、対応を理解する。
- ⑥死に直面した人の心理状態、こころの変化を理解し、利用者と家族へのケアと終末期ケアの医療職との連携ポイントを理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 入浴・清潔保持のしくみ①
2. 入浴・清潔保持のしくみ②
3. 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①
4. 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②
5. 変化の気づきと対応①
6. 変化の気づきと対応②
7. 排泄に関連したしくみ①
8. 排泄に関連したしくみ②
9. 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
10. 変化の気づきと対応
11. 休息・睡眠に関連したしくみ
12. 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
13. 変化に気づくためのポイント
14. 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方・「死」に対するこころの理解
15. 終末期から危篤状態、死後のからだの理解・終末期における医療職との連携

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉士養成講座11 中央法規出版 「こころとからだのしくみ」	①出席率 ②授業態度等 ③レポート提出率と内容(小テスト込) ④終講試験 総合評価

(医療的ケア)

授業概要

授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
医療的ケア(演習)		(講義・ 演習 ・実習)	講師調整中看護師
実務経験		高邦会グループ看護師	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修
15回	30時間(1単位)	2年 前期	

[授業の目的・ねらい]

- ①安全に実施するための基礎的知識と手順・留意点を理解する。
- ②安全・適切に医療的ケアが実施できる技術を習得する。

[授業全体の内容の概要]

- ①喀痰吸引及び経管栄養の実施に関する手順・留意点を理解する。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

喀痰吸引及び経管栄養の実施に必要な知識と技能を身につける。

- ①シュミレーターを使用し喀痰吸引の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。
- ②シュミレーターを使用し経管栄養の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。
- ③シュミレーターを使用し救急蘇生法の各演習においてケアの実施の流れ(準備から実施・報告・記録)と留意点について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1. 咳痰吸引・口腔内①
2. 咳痰吸引・口腔内②
3. 咳痰吸引・鼻腔内①
4. 咳痰吸引・鼻腔内②
5. 咳痰吸引・非侵襲的①
6. 咳痰吸引・非侵襲的②
7. 咳痰吸引・気管カニューラ内部①
8. 咳痰吸引・気管カニューラ内部②
9. 咳痰吸引・侵襲的①
10. 咳痰吸引・侵襲的②
11. 経鼻経管栄養①
12. 経鼻経管栄養②
13. 胃ろう・腸ろう経管栄養
14. 胃ろう・腸ろう経管栄養半固体
15. 救急蘇生法

※喀痰吸引、経管栄養は各種5回以上、救急蘇生法は1回以上演習を実施する。

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉士養成講座15 中央法規出版
「医療的ケア」

[単位認定の方法及び基準]

技術試験にて8種5回目以降

全項目全て(⑦)にて合格となる。

(※技術試験期間内に修了すること。)

(医療的ケア)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
医療的ケア(実地研修)	(講義・演習・ <u>実習</u>)	講師調整中(看護師) 高邦会グループ看護師
実務経験		
研修期間	約1か月	配当学年・時期
適宜		2年 前期 選択

[授業の目的・ねらい]

①喀痰吸引及び経管栄養の資格取得の為、実施し必要な知識、技能を修得する。

[授業全体の内容の概要]

①喀痰吸引及び経管栄養の決められた項目の研修を行う。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

①1号研修：喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管カニューラ内部) 経管栄養(経鼻・胃ろう)を規定の回数合格する。

②2号研修：1号研修の5項目より4項目以下で選択し、規定の回数合格する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

<1号研修>

喀痰吸引①口腔内

②鼻腔内

③気管カニューラ内部

経管栄養①経鼻

②胃ろう又は腸ろう

上記5種類全ての実施、合格にて修了となる。

<2号研修>

上記1号研修項目より4種類以内の実施、合格にて修了となる。

※口腔内の喀痰吸引は10回以上、その他喀痰吸引及び経管栄養を20回以上実施する。

[使用テキスト・参考文献]

最新介護福祉養成講座15 中央法規出版

「医療的ケア」

大川看護福祉専門学校介護福祉学科研修及び実習に関する要項

[単位認定の方法及び基準]

①必要回数以上の実施

②実施回数の7割以上合格

③最後の3回合格

上記を満たすと修了となる。

(介護)

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
ターミナルケアの介護	(講義・演習・実習)	外内 美弥子(16) 酒見 久瑞子(14)
実務経験	外内:38年 酒見:30年	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期
15回	30時間(1単位)	2年 後期 必修

[授業の目的・ねらい]

- ①尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が維持できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
- ②終末期の経過に沿った支援とチームケア・チームアプローチの実践について役割を理解する。

[授業全体の内容の概要]

- ①人生最終段階のとらえ方を学び、介護の考え方と介護福祉職の役割を学ぶ。
- ②人生の最終段階における意思決定のあり方とアセスメントの視点を学ぶ。
- ③死をむかえる人の支援、むかえた人とその家族への介護を学ぶ。
- ④多種職連携とその役割、関わりかたとグリーフケアについて理解する。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

- ①終末期の意義と介護の役割について又チームケア・多職種連携について理解する。
- ②最終段階における意思決定のあり方とアセスメントについて理解する。
- ③エンゼルケアの手順と留意点について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

<外内 美弥子 先生>

1. 人生の最終段階におけるケアの意味
2. 人生の最終段階におけるアセスメントの視点
3. 死を迎える人の介護
4. 死を迎えた人の介護
5. 亡くなったあとの介護・グリーフケア①
6. 亡くなったあとの介護・グリーフケア②
7. 人生の最終段階における多職種連携の必要性
8. 多職種の役割と介護福祉職との連携

<酒見 久瑞子 先生>

9. 人生の最終段階におけるアセスメントの視点
10. 死を迎える人の介護・死を迎えた人の介護
11. 亡くなったあとの介護・グリーフケア
12. 人生の最終段階における多職種連携の必要性
13. 多職種の役割と介護福祉職との連携
14. 死が近づいたときの日常の変化
15. 地域ごとの埋葬習慣

※施設・病院での多職種連携やターミナルケアの実際も含む。

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
最新介護福祉士養成講座7 中央法規出版 「生活支援技術Ⅱ」 適宜資料配布	出席状況 授業態度 終講試験 総合評価とする